

小笠原で暮らすイルカたち～2023年の新規登録個体～

イルカ通信No.113に登場した昨年夏生まれの仔イルカ。それから1年以上経過した現在も、母親と共に元気に泳ぐ姿が観察されています。この先2～3年程は母親と行動を共にすると考えられますが、すでに識別しやすい特徴があるため、IDカタログにも新規個体として登録されました。今号では、この個体と共に、今年新規登録された個体をご紹介します。

NEW!

#398・♀ 観察歴：2022年～
ジェイ 確認海域：聳島列島のみ



写真提供：打込みゆき

イルカ通信No.113にてご紹介した2022年の夏生まれの個体で、母親は#166(嫁フック)。背ビレ上部が「J」の字型に欠けているのが特徴。左の胸ビレの上側にある黒い線傷も識別の際の手がかりになる。

NEW!

#399・♀ 観察歴：2020年～
ボコ 確認海域：母島列島のみ



#362 トツ子

2020年9月、母親の#362(トツ子)との同伴を確認したのが最初の記録。その後も毎年出会っており、今年7月の時点でも母親と一緒に泳いでいる姿を観察している。背ビレがボコボコに欠け、先端がちぎれそうな状態に……。

NEW!

#400・? 観察歴：2020年～
クロイチ 確認海域：聳島列島のみ



#303(シャープ)(イルカ通信No.92参照)の子ども。右の胸ビレ後方に漢字の「一」のような黒斑がある。背ビレや尾ビレには欠損がないため、識別難易度が高い。今年10月、母親の#303がハシナガイルカの新生児を同伴していたことが確認されている。



聳島列島WANTED個体～続報～



イルカ通信No.111に掲載したお尋ね背ビレのうち2個体について、その持ち主が判明しましたのでご報告します。

#391→#326(嫁キップ・性別不明)であったことが判明!



写真提供：打込みゆき

尾ビレの欠損が識別ポイントでしたが、背ビレにも大きな欠損ができたことで、船上からでも識別しやすくなりました。

#392(カマちゃん・性別不明)



写真提供：小林美由記

左胸ビレが大きく欠けてカマキリの前脚のよう。その特徴から、「カマちゃん」と名付けました。